

引退後の道、明確に照らす

■野球を学問する

桑田 真澄・平田 竹男(著)

野球を
学問する

桑田真澄

平田竹男



あさひ・けんたろう 75年熊本県生まれ。北京・ロンドン五輪でビーチバレー日本代表。
＝西田裕樹撮影

ビーチバレーボールの現役選手だった2010年、引退後の備えに知識を得ておこうかと、軽い気持ちで手に取った本でした。僕はジャイアンツのファンで、尊敬する桑田真澄さんの軌跡にも興味があった。桑田さんが早稲田大学大学院でどんな問題意識を持ち、何を研究したかを、指導した平田竹男教授との対談形式で書いてあります。こういう世界で自分を磨きたいと背中を押された気持ちになり、4月から同じ大学院で学んでいます。

元ビーチバレーボール選手 朝日 健太郎さん

僕は身長199センチです。小学校6年生で175センチあり、中学校で長身を生かせるバレーボール部に入った。高校、大学でも続け、日本代表を経験後の02年にビーチバレーに転向、昨年引退しました。スポーツばかりしてきたので、教養や知識を得る作業を若い頃にしなかったという思いがあります。

ビーチバレーの選手活動と並行して、日本ビーチ文化振興協会の理事を務め、引退後に理事長に就きました。海辺を活用するための調査やイベントを手がけるNPOです。そこで感じたのは、選手としての思い出話や経験則だけじゃ引退後に飯は食えないな、ということ。もっと肉付けをして、雄弁に伝えるためには、一度学問の世

界に身を置く必要があるんじゃないか。それを確信させてくれた本でもありました。

「野球道」を掘り下げた桑田さんの研究に心ひかれます。飛田穂洲が戦前に唱えた野球道を「練習量の重視」「精神の鍛錬」「絶対服従」の三要素に集約。自分が受

けたいじめや体罰の経験をひきながら、状況を変えるためにも「練習の質の重視」「心の調和」「尊重」からなる「スポーツマンシップ」を提言しています。その理路整然とした語り口に、立場は変わっても信念やポリシーが揺るがない一貫性を感じます。

引退後にどうするか。それを考え始めるとスポーツ選手はみんな不安になるんです。実業団チーム

なら会社に残る人もいますが、営業に行くにせよチームスタッフになるにせよ、同年代が会社員としてばかりやっている中で転身するわけですから。そんな中であって、一つの道筋を、明確に照らしてもらった気がします。

この春、BSフジの番組「バレーボールチャンネル」でナビゲーターを始めました。心がけているのは、感覚だけの発言をしないこと。根拠でも例えでも、事実を踏まえて自分の感性を語ったほうが伝わる気がする。それも、この本から学んだことかもしれない。

(新潮社・1365円、増補・改題された『新・野球を学問する』は新潮文庫・515円)